

# I .相続の基本

## 相続分・遺留分とは？ 親族・血族の範囲

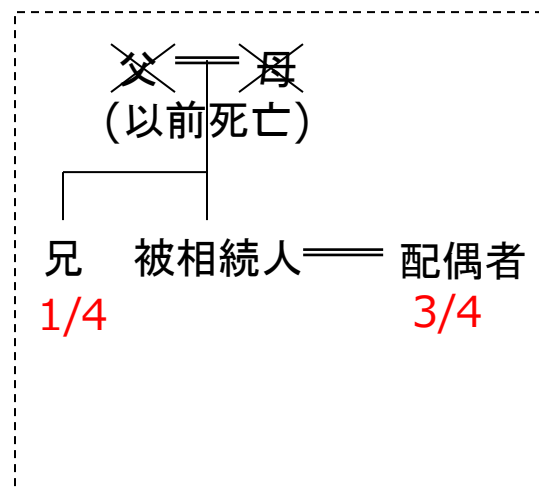
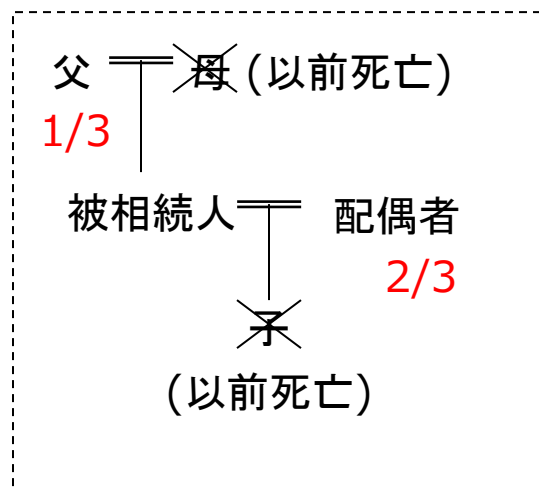
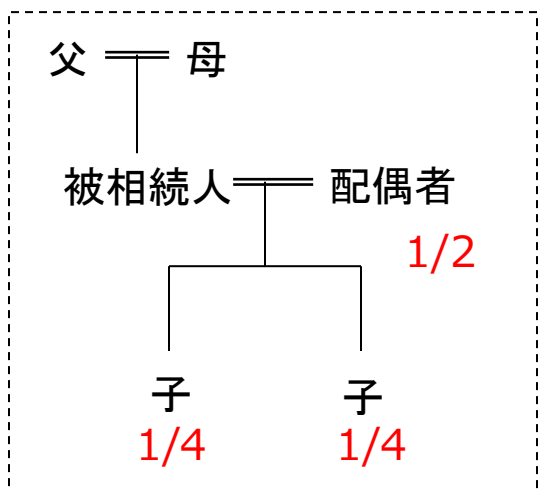
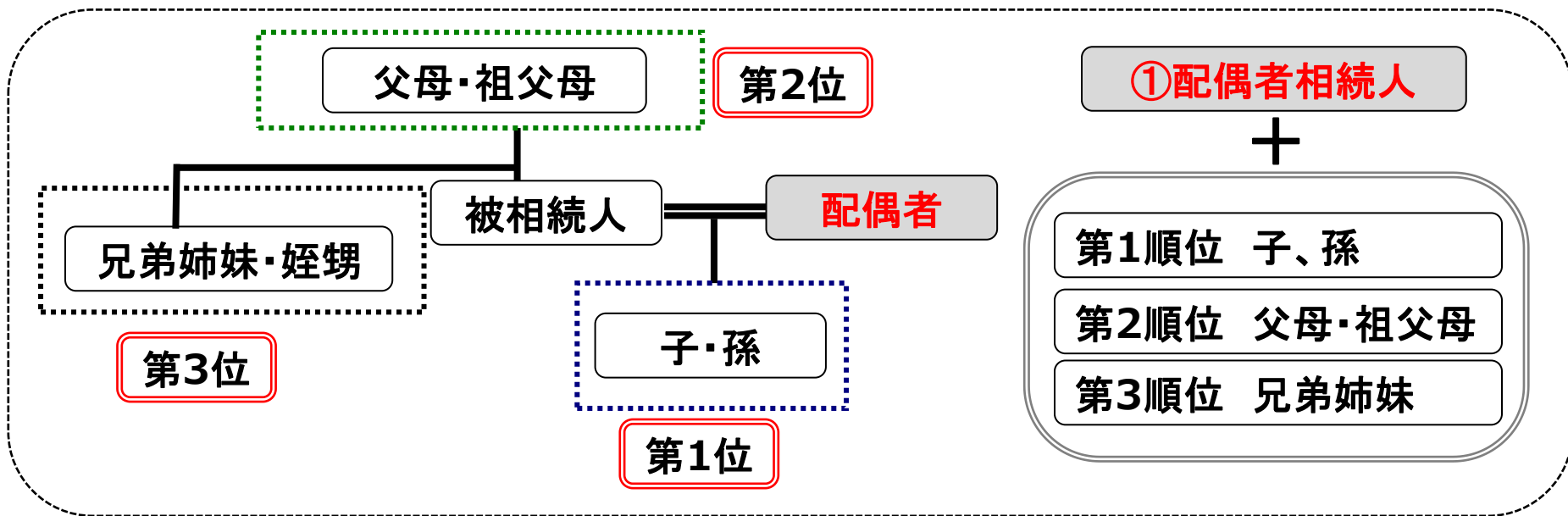
**SMART THINK**  
税理士法人 スマートシンク

税理士法人 スマートシンク  
代表税理士 菊地 則夫  
社員税理士 宿谷 紫  
税理士 山内 孝宏  
税理士 漆谷 耕太



# 1. 法定相続分

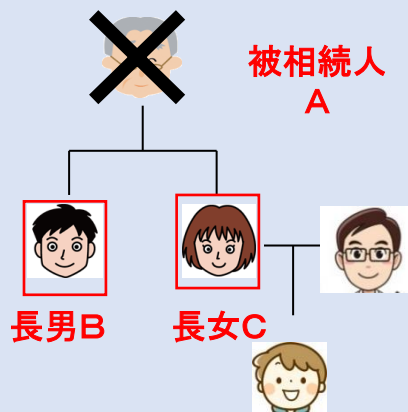
## 1. 相続人と相続分



# 2. 遺産分割協議

一般的に、相続が発生した場合には、『遺産分割協議』により、だれが何を相続するかを決めます。

- ①遺産分割協議に参加できる人  
⇒相続人のみ(相続人の配偶者や孫は不可)



- ②遺産分割協議書の作成、署名、押印  
⇒相続人のみ(相続人の配偶者や孫は不可)

遺産分割協議書

平成 26 年 4 月 1 日に相続した被相続人 A の財産について、相続人である B、C は下記のとおり分割することに合意した。

- 相続人 B は下記の財産を相続する。  
(1) M銀行 S 支店 普通預金 口座番号 123456  
(2) M銀行 S 支店 定期預金 口座番号 987654
- 相続人 C は下記の財産を相続する。  
(1) 土地  
所在：横浜市青葉区〇〇  
地目：宅地  
地積：150 ㎡  
(2) 建物  
所在：横浜市青葉区〇〇  
家屋番号：△△  
構造：木造  
床面積：100 ㎡
- 上記 1 及び 2 に記載がない財産並びに後日判明した財産については、B が相続する。
- 債務及び葬儀費用は B が負担する。

以上のとおり遺産分割協議が成立したので、本協議書を 2 通作成し、各相続人がそれぞれ 1 通ずつ保管する。

平成 26 年 11 月 24 日

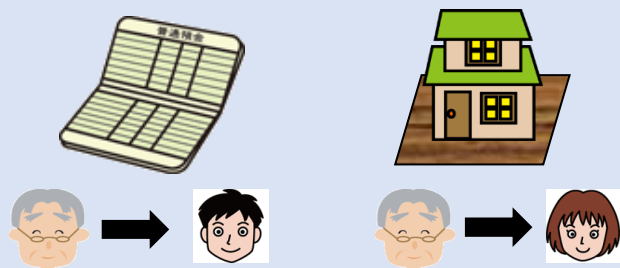
住所 横浜市西区〇〇  
氏名 B 印

住所 横浜市青葉区〇〇  
氏名 C 印

**預金はB  
不動産はC**

**全員の  
署名押印**

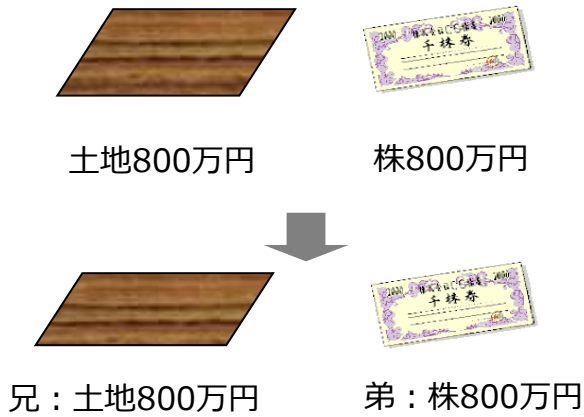
- ③名義変更



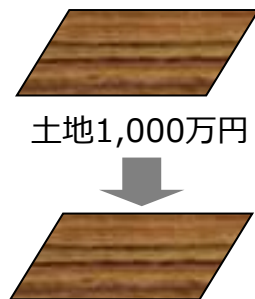
分割協議がまとまりやすくするため、財産の整理(売買、権利関係)をしておくべき

# 3. 遺産分割の方法

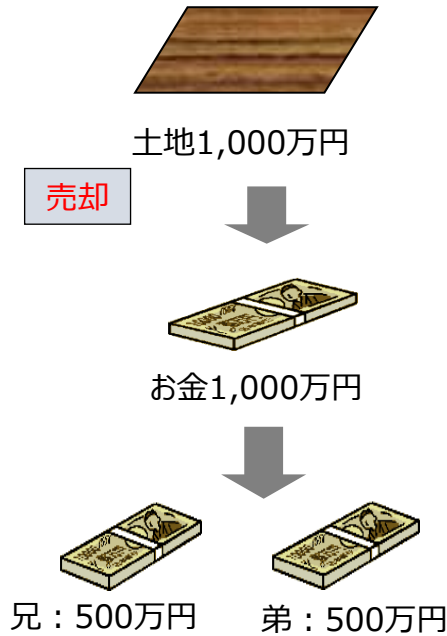
## 現物分割



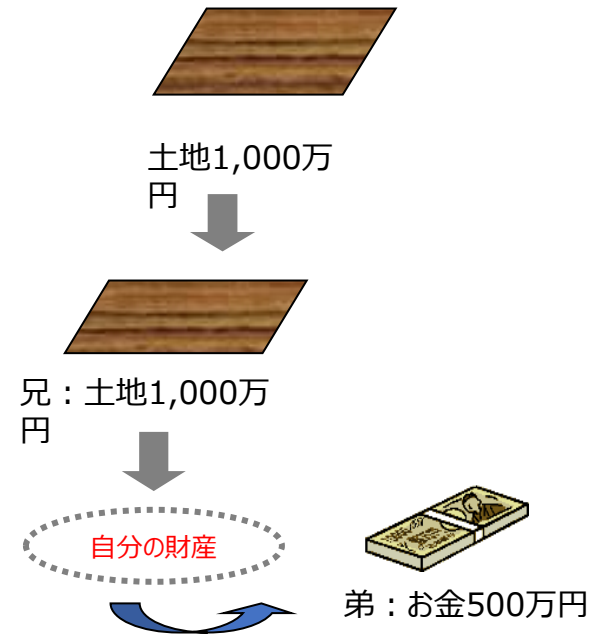
## 共有分割



## 換価分割

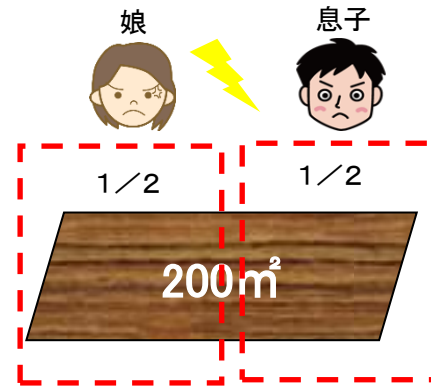
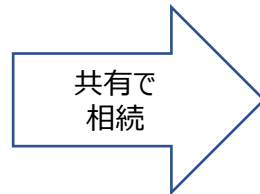
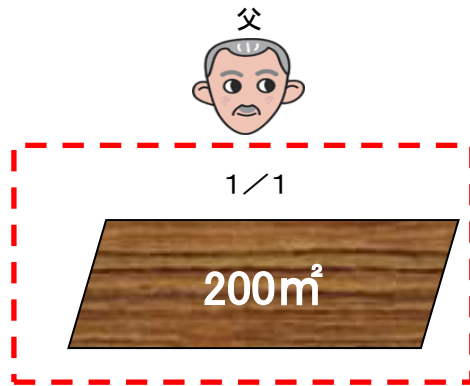


## 代償分割



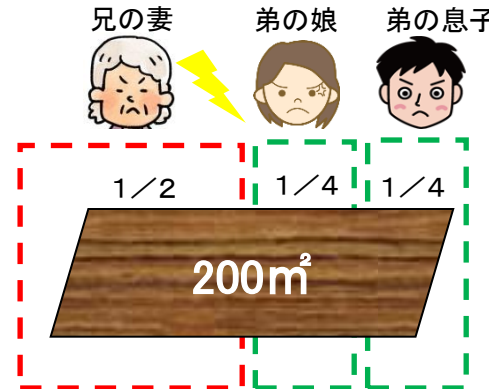
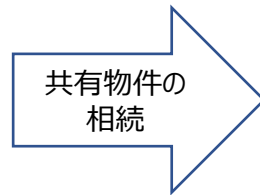
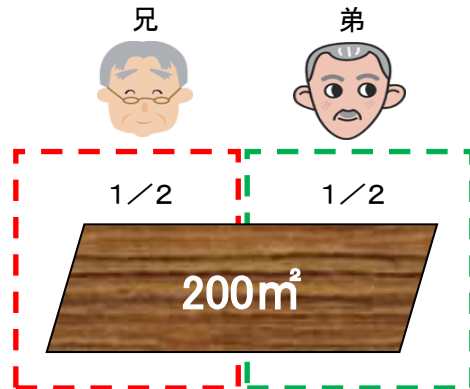
# 4. 共有の問題点

《単有⇒共有》



共有での相続はモメやすい  
⇒単有でもらう人を遺言書などで指定すべき！

《共有⇒共有》



共有物件の相続は、共有者が増えてさらにモメやすい  
⇒相続発生前に共有状態を解消しておくべき！

共有で不動産を保有することはできるだけ避ける

## 不動産はなるべく単独所有で分ける

なぜ、不動産の共有相続は避けるべきなのか？

兄弟間の共有では・・・

- ・ その後の相続での共有者の数がどんどん膨れ上がる
- ・ ほとんど縁のない姪・甥や各々の配偶者等が共有者となる  
⇒ 物件の処分や賃貸業そのものもままならないことに！

不動産の共有登記は問題の先送りにすぎない

物納対象とすることができない

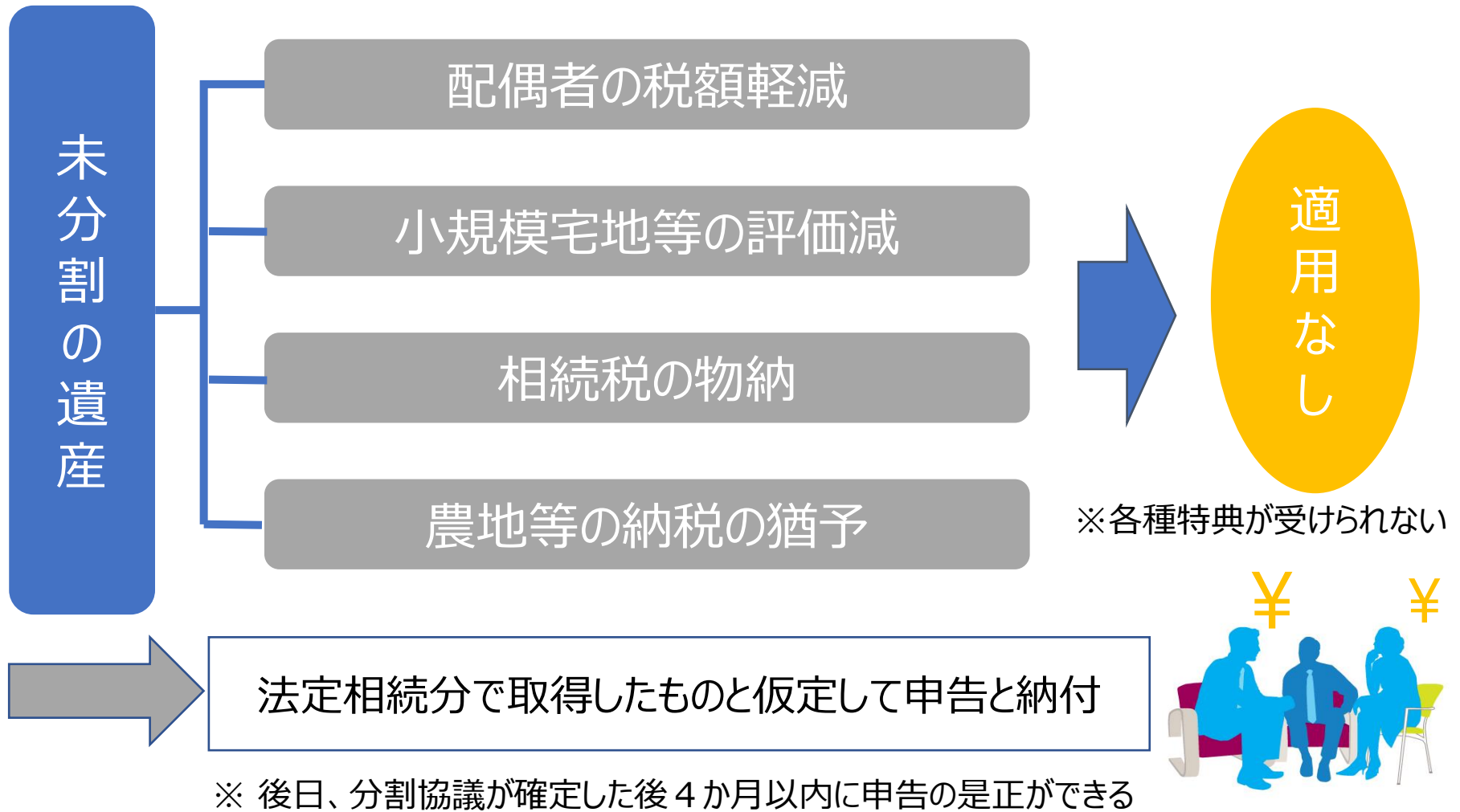
事実上売却ができない

事実上担保に入れられない

相続の度に共有者が増える

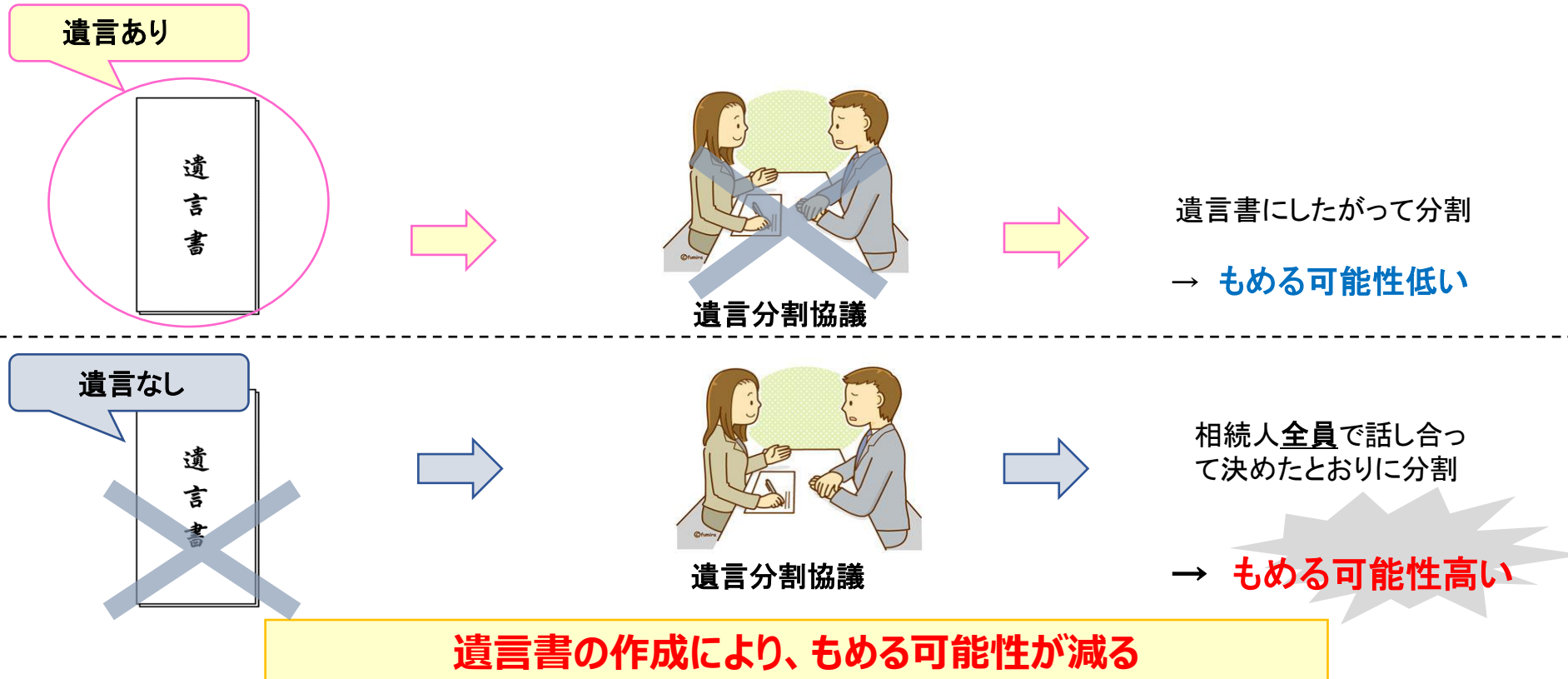
# 5. 遺産分割の方法

## 分割協議がまとまらないデメリット



● 分割協議になった場合、何よりも 10 か月以内に話をまとめることが一番重要である。

# 6. 遺言書作成の重要性



## [ポイント]

- ・遺言がある場合は遺言に従って分割、遺言がない場合は遺産分割協議に従って分割します。
- ・遺言書がある場合でも遺産分割協議をすることができます。



## 《遺留分》

遺留分とは？

||

相続人が相続できる  
最低限の割合

- ①相続人に配偶者又は子・孫のいずれかがいる場合  
……相続財産の1/2
- ②相続人が親・祖父母だけの場合  
……相続財産の1/3
- ③相続人が兄弟姉妹だけの場合  
……遺留分はなし

## 《具体例》

全額を兄に相続させる  
旨の遺言あり

遺産 1 億円



被相続人



兄



弟

相続から1年以内に  
兄に遺留分の減殺請求ができる

【弟の遺留分】

$1 \text{ 億円} \times 1/2 \times 1/2 = 2,500 \text{ 万円}$

1. 相続が発生したら、誰にどれだけの権利があるのか把握しましょう
2. まとまりにくい遺産分割協議は早めの準備に心がけましょう  
まずは、財産の正確な把握と分割のシミュレーションが必要  
財産一覧目録→専門家に相談
3. 遺言は財産がある人の義務
4. 遺言があれば、遺言どおりに遺産分割できるが、  
遺留分に気を付ける必要があります
5. 共有は極力避けましょう

